

文化庁に寄せられた御意見等について

5月11日に開催された国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策検討会（第3回）以降、文化庁に寄せられた御意見の総数は14件（電子メール6、郵送7、電話1）であり、概要は以下のとおりである。

【カビ等生物対策・発生原因に関するもの】

- 内部を窒素で充たす方法を採用すれば、カビ及びダニは死に絶える。
- 「銀メッキした湯桶」を置くことでカビ・雑菌が抑えられる不思議な湯桶がある。
- 「灰」が有効。
- 無機質の表面コートを施し、カビ等の菌の付着と繁殖元を完全にカットする。
- 石室内部の空気を抜き、不活性気体（ヘリウム等）で置き換える。
- 発見時以降の石室内の人の出入りによる、無酸素状態がくずれ様々なバクテリアが増えたことがカビの繁殖の原因。温度・湿度・無酸素のバランスがくずれた。
- 「遠赤外線テラヘルツ光波」により、相対湿度の低下やカビ発育抑止変化が表れ、壁画色彩成分と石壁質の元素分子間結合力で変化せず固定付着し、カビ菌は消滅する。
- チタン粒子による「壁画の劣化」「壁画の退色防止」「カビ菌の死滅」効果がある。
- 「窒素ガス封入と監視カメラ」により保存する。

【壁画恒久保存方策に関するもの】

- 「実物大のレプリカ陶板画」を作成する。
- 「博物館保存」し、「絵」を残すことを重視すべき。
- 墳丘全体の「冷蔵保存」。文化財の専門家だけではなく、菌対策、劣化対策、液化天然ガス冷却等に関連した専門家の意見を多数聴取した上で保存対策を判断すべき。
- 「お墓」を解体することは反対である。模写による恒久保存を考えるべき。実物の壁画は石室を空けてしまった宿命として、劣化し朽ちていく間、公開すべき。

【文化庁に対するもの】

- 文化庁は壁画の劣化及びカビ被害による惨状に対する失態を率直に認め、国民に謝罪すべきである。
- 発見当時の担当者の判断が誤っていた。高句麗壁画は報道写真を見る限り鮮やかに保存されている。